

## 青春に茶道

愛媛県立新居浜西高等学校3年（愛媛県）

### 藤田 理子

私は茶道の綺麗な動作が好きだ。ひとつひとつに意味も決まりもあるお作法は、見ていると楽しく、やっていると心地よい。動作が少しでも美しく見えるように、いつもより指先や腕の動かし方、歩き方に意識を向ける時間が大好きだ。

大好きではあるが、私はあまり所作が美しいとは言えない。お点前も他の部員に比べると雑で、物覚えも悪く、よく正しい手順を飛ばしたりと非常に慌ただしい。情けないことにこんな私だが中高あわせて茶道部所属歴は6年。帛紗の捌き方だけはマスターした高校3年生だ。お点前は覚えてたの中学1年生の時から著しい上達を見せたわけではないが、茶道部で習った作法は私の日常生活に奇妙な馴染み方をした。

私は茶道部歴6年だが中学校3年生の時は一度もお点前をしていない。2年生の終盤からその存在が認知されてきた新型コロナウイルスの影響で、私の茶道部としての活動は早めに終止符を打たざるを得なくなった。茶道部の活動が楽しくて大好きだった私は本当に無念で悔しかった。私は元々おぼろげだった作法を忘れたくなかった。だから家で食器を洗うときは、お皿をスポンジで挟んでくるりくるりと作法と同じように3回半。大きなお皿の表面を洗う時には、ちょっと歪な「い」と「り」を書いてみた。お箸を洗う時は茶杓と同じように清めた。中学3年生なりに忘れまいと考えた結果だった。それに余すことなく食器が洗えるこのやり方がちょっと便利だった。

高校生になった私はまた茶道部に入った。おぼろげだった作法は、相変わらずおぼろげなままだった。高校の茶道部で活動するようになってから、私の知識は急速に増えた。まず知ったのはお点前の種類が盆略点前だけではなくなかったこと。千歳盆やお棚が増え、それに伴って新たな清め方や、新たなお道具を覚えた。中学校の部活動より本格的で嬉しかった。高校3年生の文化祭では自分たちでお茶会も開いた。毎年開催していたそうだが、新型コロナウイルスの影響で私たちは一度も経験できてなかったのだ。未経験という状況だったうえ、急遽文化祭での飲食物の出し物が可能になったという経緯があったため、全てが急ごしらえになった。お点前と半東は3年生で担当した。私のお点前は相変わらずだったが、初めてやった半東が楽しかった。この文化祭のお茶会のあと、地域の中高の茶道部が集まって合同でお茶会を開くことがあった。私はその時半東をやらせてもらった。水屋でお茶を点て、お運びもしたが、やはり一番記憶に残るのは半東をしたことのように思う。一生に一度になるかもしれない貴重な経験をさせて貰えて嬉しかった。半東として人前に出たおかげか、お辞儀の仕方や歩き方、座り方が少し綺麗になったような気がする。

私は高校を卒業してもきっと茶道が好きだろう。ただのお茶を飲むのが好きな子供のままだったら絶対に経験できないことをたくさん経験した。私の学生時代の貴重な経験は茶道からもらった。私にとっての茶道は思い出だ。これからもまだ茶道に関わっていけるとしてもやはり思い

出であることに変わりはない。卒業後、私がどうするかは分からない。だけど折角覚えた作法は、おぼろげでも完璧でも覚えておこうと思う。苦しい時にお茶を点てると元気になれる気がするから。